

都留文科大学の十年

都留文科大学社会科学部教授 今泉 吉晴

ここ数年、わたしはしばしば自責の念にかられてきた。数ある都留文科大学の研究室の中で、都留の自然を相手にするわたしの研究室ほど多く、市民の方々の世話になり、その一方で、恩に報いるどころか、迷惑をかけてきた研究室はないだろう。

わたしが都留文科大学に、動物学担当の教員として着任したのは、十年ほどまえのことである。東京から都留に移り住んだわたしにとって、この土地は宝石のような輝きを放つ楽園に見えたといっても、言いすぎではない。着任早々の四月、大学のキャンパスに清楚なヒメシロチョウが飛びかうのを目をひかれた。やがてむかえた五月には、白くすきとおるはねを持つウスバシロチョウがゆったりと舞うのが、そうした都留ではごくふつうのチョウたちのほとんど全てが、かつて昆虫少年だったわたしには夢にまでみる憧れのチョウなのである。

むろん、チョウは元昆虫少年の慰めのためにあるわけではない。近年、すでにヨーロッパでは、キアゲハやイチモンジチョウなどの、わたしたちにもおなじみのチョウの数々が、絶滅にひんしている。自然破壊のために、チョウの幼虫

が食べる植物がすっかり減ってしまったのが主な原因である。ちなみにキアゲハの幼虫が食べる植物（食草）は、セリやミツバだから、ヨーロッパでキアゲハの絶滅が心配されるということは（イギリスではすでに絶滅した）、彼の地からこれらの仲間の植物がほとんど姿を消したことを意味する。

都留にはわたしの専門の哺乳類もたくさんすんでいたから、わたしは張り切って、学生と市内各地に生態調査にでかけることになった。そこで頼りになるのが、小さな子どもたちを含めた市民の方々の生活経験である。

わたしたちの環境をつくるみじかな自然は、けっして手つかずの原始自然というわけではない。春の都留にウスバシロチョウが飛ぶのは、その食草であるムラサキケマンというケシの仲間の植物が多いからなのだが、ムラサキケマンは人の手のはいった山間の明るい林に良く育つ。つまりウスバシロチョウは古くから山間の地に手を加え、活用してきた都留の人々の働きと自然とのはたらきあいの結果として、毎年五月にわたしたちの前に姿をあらわすのだといえる。こうして、都留の人々の感性には、いつのまにか都留独特の自然の持

ち味が組み込まれているのである。ある日、市内の神社の境内で野球の練習をしている小学生に、ムササビが夕方、境内のスギの大木の梢から滑空する方向を教えてもらった。彼らは日頃、野球の練習をしながら、ムササビの飛ぶ姿を目にしていたのである。だが、小学生のいうムササビの滑空の方向は、わたしがそれまでの観察の経験から予測するのは、まったくちがう意外な方向であった。なぜ、その神社のムササビが例外的な滑空をするのか、この謎を追求することから、わたしはムササビの生態について、いっそう深く知るようになった。

動物の研究者として、あるいは学生として、大学という場を出て、市民の方々と交流をもつには、本



多くの人々の協力でムササビの滑空のための発進台をつくった。

来ある責任をとるものでもあり、慎重であらねばならないと思う。だが、わたしたちはかなりの程度にラフであったし、現にそうである。動物の生態について知った面白さを、市民の方々に伝えようと、観察会を企画し、あるいはテレビ番組を制作した。雑誌の記事を書き、教科書をつくった。こうしたことは、わたしや学生にとっては研究の意味を問わないおす大切な作業である。だが、どうしても独りよがりの考えを、無理に現実にあてはめるといふ危険がある。

つまり、「都留文科大学は開かれた大学であり、都留市全体が大学のキャンパスである。」という言葉の方はスマートではあるが、わたしの研究室について、例えて言えば、「実験段階の新薬を実用に使ってしまうのににた危うさがある。」といいたがらも、さらにわたしたちは、「ムササビと森を守る会」や「ムリネモ協議会」、そして「宝鉱山研究会」などの結成といったぐあいに、研究室の活動を広げてしまっている。

市民の方々から教えを受けながら、都留市のもつ価値をさまざまにひきだそうという試みなのであるが、研究活動のあり方について再検討すべき時期にあると、わたしは自省している。

豆の木文庫 クリスマス会を開きます



クリスマスツリーのかざりつけや、歌・本のおみかきをします。

日時 12月2日（土）

午後2時～4時

場所 市立図書館

参加者 幼児・小学生からどなたでも参加できます。

主催 市立図書館・豆の木文庫（都留文科大学児童文化研究部）

問合先 市立図書館

☎（43）1321内線40

ふるやの祭

12月8日 針供養（市内各地）

22日 冬至（市内各地）

24日・25日 クリスマス

（日本キリスト教団谷村教会他市内各地）

31日 大晦日法要（除夜の鐘）（市内各寺院）

1月1日（初詣）（市内各地）

4日 消防出初式

（谷村第一小学校校庭）